

# プラスアルファ 求められる以上の仕事を

## フリーカメラマン 山崎美津留さん

雑誌の記事に載せる芸能人や経営者などのインタビュー写真や、料理、映画のスチール、コンサートなど、さまざまな写真を撮影し活躍されているフリーカメラマンの山崎美津留さんにお話しをお伺いしました。



こちらは山崎さんが  
撮影された映画の  
スチール写真です



鯉を  
食べよう

郡山の  
名店で

厳選14店



こちらは山崎さんが  
撮影された料理の  
お写真です

## —この仕事に興味を持ったきっかけを教えてください

小さい頃からわたしの将来の夢はずっと漫画家で、高校を卒業後、専門学校に入学しました。その専門学校に漫画家がいる、彼女のお手伝いをしていたのですが、わたしには漫画家が向いてないことに気づかされたのです。24時間働きっぱなしでまともな生活じゃなかったし、その漫画家さんの絵がすごすぎて、自信をなくし夢を諦めました。やりたいことをやれなくなりすごく焦りました。でも、わたしは絵を描くときにその素材の写真を撮っていて、写真でも1つの「絵」を残せることに気づいたんです。また、音楽が好きでライブによく行って「目の瞬きがシャッターだったらいいのに」って思うほどその最高の瞬間を思い出に残したくて、写真をやりたいと思うようになりました。わたしは「**やりたいことをやらない人生は人生じゃない**」そう思っているんで、それから写真の世界に入りました。人生変わりましたよ。

## —仕事に就くまでの経緯を教えてください

写真に携わる仕事がしたくて、フィルムの現像もやっている印刷会社に就職しました。でも写真とは関係ない名刺やはがきも作っていて「なんか違うな〜」「わたしがやりたいのはこれじゃないな〜」と思って(笑)。それから印刷会社で1年働いてお金を貯めてから東京へ行き、昼間は働いて夜はカメラの専門学校に通いました。卒業してからは雑誌社のスタジオに就職。そこで修行をしてから、広告系と雑誌系のカメラマンさんのアシスタントに就きました。2つの仕事の仕方を見られたことで、撮影技術や仕事のプロセスを幅広く勉強できたと思います。その後だいたい1年半働いてから独立をしてフリーのカメラマンになることに決めました。



## —今の仕事に就いてからの1日の動きを教えてください

忙しいときは撮影がたくさん入っています。フリーでやっているから事務所がないので自分が現場に移動するしかなくて、1日で千葉に行って埼玉に行って東京に行ってまた千葉に戻るっていう日もあったし、日帰りで福岡や秋田に行ったこともありました(笑)。

## — 休日は月にどのくらいありますか？

正直わからないです（笑）。すごく忙しい日は忙しいし、暇な日は暇なので「何日が休み」とはあまり言えないです。休日の日も他のクリエイターさんと交流を深めるために会いに行ったりするし、自分の家でデータの整理や雑用もしているので、それが仕事といえど仕事ですし…だから「本当に1日なにもしない」って決めないと休日あまり休めないですね。

## — 仕事のやりがいを教えてください



「こういう風に撮りたい」と思ったときに自分の思う通りに撮れたときです。時間に余裕がないこともしばしばあるので、限られた時間の中で自分のパフォーマンスができたときにやりがいを感じます。また、ドラマのメイキングや裏側を撮影する際は、人の素の顔をいかにいい表情で撮れるかが重要で、これができたときとても嬉しいです。

## — 仕事をしていて大変なところを教えてください

とにかく不規則な生活になるところです。ドラマ撮影で27時間働きっぱなしなこともありました。なので、気力や気合だけではダメで体調管理はしっかりしないとイケないです。あとは、とにかく荷物が重くて大変です。現場まで車で行けないときや、地方に出張のときは長時間重い荷物を持ちながら移動しています。ライブではカメラを3台持ちながら撮影するので重すぎて大変です。

## — 仕事をする上で心がけていることを教えてください

**求められることのプラスアルファまでやることです。**求められていることは最低限やって、それ以上をやること。写真を撮ることは当たり前なので、それ以外にも現場の雰囲気づくりや提案など、求められていることのプラスアルファまでやって、この人に仕事を頼んで良かったと思われるように全力でやることです。



## —今の仕事をしていてよかったことを教えてください

仕事を頼んでよかったと心から言ってもらえることです。知り合いの方にもお宮参りや七五三、ブライダル、家族写真などを頼まれることがあって、自分の撮った写真をすごく喜んでもらえたとき、この仕事をやっている本当によかったと思います。仕事もそうだけど、仕事もプライベートも人の役に立てることって1番の喜びだと思っていて、「ありがとう」と言ってもらえることがすごく嬉しいです。それは仕事だけでなく、日常生活でもモチベーションが上がります。**自分の技術で人の役に立てたとき生きていてよかった**と心から思えます。

## —この仕事をしていて辛かったことを教えてください



文句も言われずに黙って仕事を切られることです。組織に属していないから怒られることがなくて、文句を言ってくれたり、怒ってくれたほうがありがたいです。自分の何がいけなかったのか、何が失敗だったのか、自分の至らなかつた点を直したいから知りたいのですが、それを言ってくれる人がいません。自分が失敗していると思ってなくても実は失敗なのかもしれないことってあるじゃないですか。自分が気づけなかつたところを言ってくれる人がいないのは正直辛いです。

## —ここだけの話、失敗したエピソードを教えてください

撮影中にカメラ3台を持って東京ドームを走っていたときにお客さんの前で思いっきり転んだことですね(笑)。カメラとレンズが外れてゴロゴロと転がっているのを見たとき「わたし何やっているんだろう」と思いました(笑)。



## —これからやってみたいことを教えてください

アウトドアが好きなのでアウトドア関係の仕事をしてみたいです。あとは、北海道に関わる仕事がしたいです。アウトドアにも繋がるし、自分の実家があるからっていうのもあって（笑）。地元に戻るたびに活気がなくなっているような気がして…北海道ってすごくいい地域だし、ご飯も美味しいし、大好きな場所です。わたしが育ったところでもあるので、そんな大好きな北海道に恩返しをしたいです。わたしの技術がそこで使えるなら自分が育った北海道で活躍して恩返しができたらいいなと思います。

## —この職業に就きたい人にアドバイスをお願いします

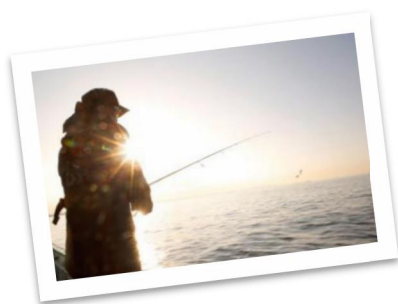


今ってすごくいい時代でその職業のことをネットで調べればある程度わかります。

けど1番は直接人に会うことです。その職業をやっている人に直接会って話を聞くことが1番早い。ネットで調べてもセミナーやイベントをやっているところも多いから、そういうところにも行ってみる。自分から動くことが大切です。

## —「好き」を仕事にするには、中高生にメッセージをお願いします

まずは遊びだったり、趣味だったり、中高生にしかできないことを思いっきり楽しんでください。無駄なことはなに1つありません。わたしも今まで色々な職業に就いたり、バイトをしたり、人生的に遠回りもしたけど全部経験となったからそこに後悔はありません。実際に興味を持ったら動いてみるのが1番いいです。人って興味があれば無意識にそのことを調べたりするから、それをやめなければなにかに繋がります。興味があることに対して止める必要はありません。今できることを思いっきりやりましょう。



こちらは山崎さんがタレントフィッシングカップという大会で撮影されたお写真です

## ～編集後記～

「取材」という初めての体験をさせていただきました。取材をしていてその人の人生の話  
を聞くことで、教わることがとても多く、深く考えさせられました。1人の人生の先輩とし  
て山崎さんからお話しを聞くことができ本当に良かったです。最後に山崎さんに取材の  
感想を聞いたとき「取材を受けられて楽しかった」「自分を振り返るいい機会になった」と  
言ってもらえたときは、とてもやりがいを感じ  
ました。今回の取材で、自分が人の役に立てた  
と思えたとき、初めて仕事へのやりがいを実感  
するということに気づくことができました。山  
崎さんが言っていた「**求められることのプラス  
アルファまでやる**」という言葉大切に  
これからわたしも仕事をする上で求められて  
いること以上の仕事をして人の役に立ちたい  
と思いました。



(取材日 2018年8月28日)

目白大学社会学部メディア表現学科 小島 ころろ